

一県内の健康医療分野に関わる図書の所蔵状況～県立図書館の役割に注目して

松本直樹（慶應義塾大学） 須賀千絵（実践女子大学）
江藤正己（学習院女子大学） 池谷のぞみ（慶應義塾大学）
matsumoton@keio.jp

抄録

居住する県内の公立図書館の資料は、住民にとって図書入手の実質的基盤となるが、その所蔵状況について、特に健康医療分野に注目して実態を明らかにするとともに、県立図書館の役割を明らかにすることを研究目的とする。和歌山県を対象とし、書誌データをNDLのOpenSearchにより、所蔵データをカーリルAPIによりそれぞれ収集した。1万点の図書を調査した結果、県全体では2,973点の図書を所蔵しその平均価格は1709.0円であった。県立図書館は信頼できる図書を所蔵する傾向が強かった。

1. 背景と目的

公立図書館はそれぞれの図書館システムでコレクションを構築し、市民に対して健康医療分野の情報を提供してきた。同時に、県内でネットワークを構築し、一図書館システムでは提供できない資料を相互貸借や協力貸出により提供してきた。

こうした公立図書館の健康医療分野のサービスについて、池谷は近年の動向を整理している¹⁾。また、磯部他は、がん情報サービスを中心に都道府県政令市の図書館による提供状況を調査している²⁾。所蔵については、松本他が全国的な調査を行っている³⁾。

しかし、市民にとって図書入手の実質的基盤となっている一県内の所蔵状況の詳細は必ずしも明らかになっていない。そこで、本研究では和歌山県を対象に、県内で健康医療分野の図書をどのように所蔵しているかを明らかにするとともに、県立図書館の役割を明らかにする。

リサーチクエスション（RQ）として、以下を設定した。RQ1：県全体で健康医療分野の図書をどのように所蔵しているのか。RQ2：質の高い図書はどのように所蔵されているか。それぞれにおいて県立図書館の役割に注目していく。

2. 調査方法

対象は和歌山県内の公立図書館である。県内の人口は約90万人であり、比較的小規模な県である。和歌山県を選んだのは、県立図書館が健康医療分野に特化した資料選定基準を持っていること、そうした県立図書館と市町の図書館

との関係の分析は今後のサービスの発展に示唆を与えることができると考えたためである。

対象資料は、健康医療分野の図書のうち、2000年以降に刊行された日本十進分類法が490番台から499番台のものとした。このうち、公立図書館が所蔵しやすいと考えられる図書を対象とした。書誌に関わるデータは、国立国会図書館サーチのOpenSearchを用いて2023年6月に以下の条件で収集した。金額が5,000円未満であること、ISBNが付与されていること、出版年が2000年以降であること、である。条件に合致する90,537件のデータからランダムサンプリングにより1万件のデータを抽出した。

対象図書館は蔵書検索システムを提供している16市町の公立図書館と県立図書館である。所蔵に関わるデータはカーリルAPIを使用して2023年6月から7月にかけて収集した。

3. 調査結果

県全体における医療健康分野の図書の所蔵状況は以下のとおりである（RQ1）。調査対象の1万点のうち2,973点を所蔵していた。延べ数は8,812点であり、県内全体でみたときの複本は平均2.96冊であった（以下、表1参照）。2,973点のうち県立のみの収集は594点であり、県内でのアクセス可能図書を25%増やしていた。県内で当該図書館のみが所蔵するそうした独自図書の比率は所蔵資料のうちの33.8%を占め、市町の図書館の最多であるO市の179点、14.7%を大きく上回った。

蔵書の特徴について、価格、出版年、分類の観点から述べる。県全体の所蔵図書の平均価格

は 1709.0 円であった。市町は全体に低く最も高いのが K 町 (1599.3 円) であった。県立図書館は 1980.5 円であり、市町の図書館と比較して顕著に高かった。出版年からの年数は、県全体は 11.8 年であり新しいものほど多かった。自治体によりばらつきは見られたが、それは図書館整備時期と関係していると考えられる。県立図書館は 12.4 年であり、県全体と大きく違わなかった。分類記号ごとにみると、蔵書となるのは対象資料の 20% から 55% であることがほとんどであった。基礎医学や具体的な疾患に関わるものが所蔵されやすい一方、医療職向けや医療行政 (医療) に関わる図書は少なかった。

つぎに、蔵書の「質」と関係する項目について述べる (RQ2)。まず、書誌データの注記に「索引あり」と記載のある図書の所蔵を調べた。そうした図書は、学術的な手続きに則った図書の可能性が高いと考えられるためである。それらは 1 万点中、2,322 点 (23.2%) あった。所蔵は県全体で 560 点 (重複を含めると 1,620 点) であった。これは 2,973 点のうちの約 18.8% にあたり対象全体の比率を下回った。このことは公立図書館が、学術的図書より、一般向け図書を収集する傾向のあることを示唆している。県立図書館の所蔵点数は県内で圧倒的に多く 397 点であった。

RQ2 と関係して医学書出版社の集まりである日本医書出版協会の加盟出版社の図書を調べた。結果、そうした図書は県全体で 238 点所蔵していたが、これは、県内全体の蔵書の 2.7% を占めるに過ぎなかった。県立図書館は、そのうち 162 点 (68.1%) を所蔵していた。このことから、県立図書館は数としては多くないものの、県内における専門的な図書へのアクセス向上に貢献していることがうかがえた。

4. 考察

和歌山県では、公立図書館に所蔵されやすい健康医療分野の図書 1 万点のうち、2,973 点を

所蔵しており、うち、560 点は索引付きの比較的信頼できると考えられる図書であった。県内全体で見たときの複本は 2.96 冊であった。購入している図書の平均価格は 1709.0 円だったが、市町は最も高いところで 1,599.3 円だった。また、日本医書出版協会の図書が 238 点だったように、医学者向けの専門的図書はあまり所蔵していなかった。

こうした中、県立図書館は市町の図書館が所蔵していない図書を顕著に多く所蔵し、県全体として広範囲の知識にアクセスできるようにしていることが分かった。購入していた図書の平均価格は 1980.5 円であり、やはり市町の図書館より大幅に多かった。さらに、日本医書出版協会加盟出版社の図書を相対的に多く所蔵しており、信頼できる図書の県内への提供に一定の役割を果たしていた。

個別の図書館職員がどのような認識を持ち、こうしたコレクション構築をしているかを明らかにすることは今後の課題としたい。

【謝辞】本発表は、JSPS 科研費 23K11774 の助成を受けています。

【引用文献】

- 1) 池谷のぞみ「動向レビュー：国内の公共図書館における健康医療情報サービスの最近の動向」『カレントアウェアネス』No.337, 2018.9, p.20-26.
- 2) 磯部ゆき江他「都道府県・政令市図書館の医療健康情報サービス：「公共図書館のがん情報サービスの課題：提供する資料・情報の視点から」調査報告」『現代の図書館』Vol. 56, No. 2, 2018, p.83-103.
- 3) 松本直樹他「公立図書館における医学薬学分野の選書分析」『日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集』2017, p.9-12.

表 1 和歌山県内自治体ごとの各種データ

自治体	県立	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	計・平均
所蔵点数	1755	163	354	149	565	775	544	131	131	373	219	420	1606	60	22	1219	326	8812
独自図書数	594	9	38	12	36	86	61	11	11	26	17	26	209	8	0	179	30	1353
平均価格	1980.5	1422.2	1533.6	1442.5	1539.6	1469.4	1527.4	1468.3	1551.3	1493.0	1479.7	1599.3	1510.5	1384.8	1489.0	1566.1	1571.2	1709.0
出版年 (平均)	12.4	12.3	10.8	11.1	9.6	10.3	10.9	9.1	9.0	12.0	8.2	7.2	9.9	13.2	17.7	11.9	4.8	11.8
索引あり	397	20	63	26	104	131	104	21	28	64	43	97	226	4	0	202	90	1620